

①地域の現状と課題

能勢町は、古来より日本海方面から瀬戸内海方面への街道筋にあたり、京都から西国への通行路として開けた本町は、歴史的な文化財が数多く残っています。

昭和31年、歌垣、田尻、西能勢の3ヶ村が合併して能勢町が誕生しました。それから3年後の昭和34年に東郷村が合併して、現在の姿に至っています。

昭和56年に国道173号線は能勢町区間を開通し、大阪を中心とする都市部から日本海へ抜ける主要な幹線となり、平成12年に道の駅と併設された能勢町観光物産センターは地場産農産物の直売所として多くの方に利用されています。

能勢町の住民は、有史以来生活の中でこの豊かな自然や生きものと共存し、自然環境を保つ生活体系を確立してきました。その結果、人と自然と生きものが調和した美しい里山景観が創られました。里山の持つ機能や美しい環境を町内外に発信し、能勢町に住む人々だけでなく能勢町へ訪れる多くの人々も含めこの自然という財産を維持、活用しながら人、生きもの、自然が共存し加えて共感できる枠組みを構築し、次世代に引き継いでいかなければいけません。

かつては、野外活動やキャンプなどのレジャー・レクリエーション施設として、大阪府が運営する府民牧場や青少年野外活動センター、能勢の郷などの大型集客施設に多くの利用者がありました。施設の老朽化等によりこれらの施設が閉鎖され森林の荒廃、観光産業や町外来訪者の受け入れに伴う雇用も減少し、町内の観光商工業者においても影響を受けています。

また、平成26年度に日本創成会議が示した消滅可能性がある896の自治体のうち「消滅する」と名指しされた自治体の24位に能勢町はランク付けされており、早急な対応が求められています。

②事業着手の経緯

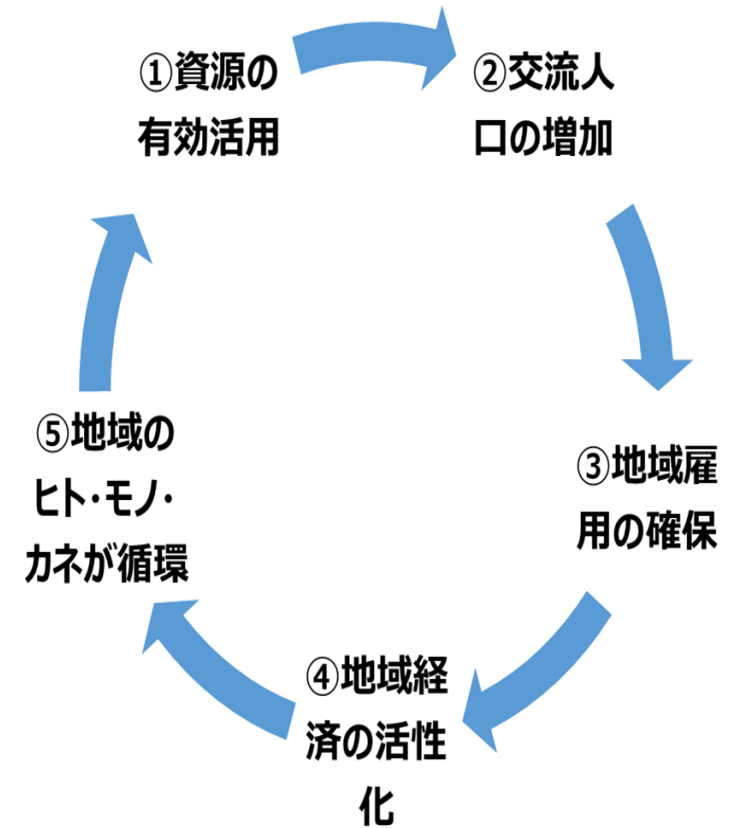
能勢町が所有する青少年野外活動センター跡地については、大阪府より平成23年度に無償譲渡を受けたが、町の財政事情などにより、未活用となっている状況です。その青少年野外活動センター跡地を地域の活性化のための第一歩として、資源を有効活用することにより再生する必要があります。

再生を行うことにより雇用の拡大、町外からの観光客の増を見込み、町の活性化を目指します。

能勢町として、「大阪のてっぺん」として町の資源である“自然”をアピール、有効活用しようという観点で地域経済の活性化を図るものの、観光資源が点在化していること、そして観光客に楽しんでもらえるプログラムが不足していたことから、集客が十分にできず、事業化が上手くいっていないのが現状です。そこで、課題を解決するために、関西圏で自然体験型アドベンチャー施設で成功をおさめている株式会社冒険の森との協力体制を組んで“大阪のてっぺん”から日本一の自然体験型の施設を創り、地域経済を発展させたいという強い思いから、本事業に取り組むことにしました。

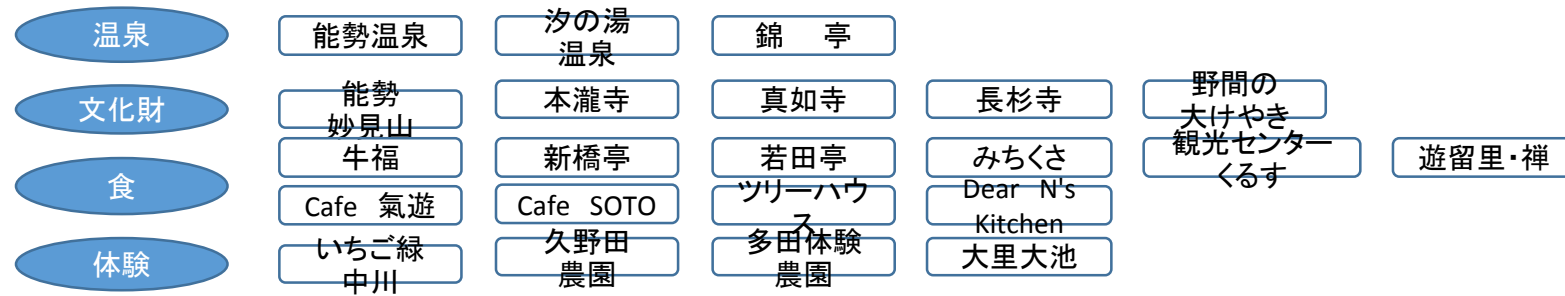
本事業の目指すところは、日本最大級の自然共生型施設を設置することで、能勢町の地域資源を最大限に有効活用し、地域経済を発展させるとともに、雇用を創出することで、地域に右記のような公益的效果をもたらすことを目標としています。右記のような公益的效果をもたらすことによって、地域のヒト・モノ・カネを循環させ、地域が自給できるビジネスモデルはできます。将来的には、地域資源有効活用事例としてのパイオニアとして、日本の地方再生のモデル町となることが目標です。

青少年野外活動センター跡地で森林に間伐、下草刈り等を大阪府森林組合や地元の宿野四区生産森林組合で森林整備を行い森を活性化します。当事業で生まれた資金を森林整備に充当を行い、能勢町内の商工業者、銀寄委員会、地域、各団体に誘導し、能勢町で一日満喫できるプログラムを構築することにより、能勢町に多くの人々が訪れる機会ができ、その機会を活用して、地域の魅力(町と株式会社冒険の森が連携を行い、ビジョンセッション、地域資源の発掘・育成・連携誘導、プランニング)を来訪者に伝えることにより能勢町ファンが生まれ地域が活性化し地域雇用を生み出すことにより人口増加につながり大きな経済効果、波及効果が生まれます。



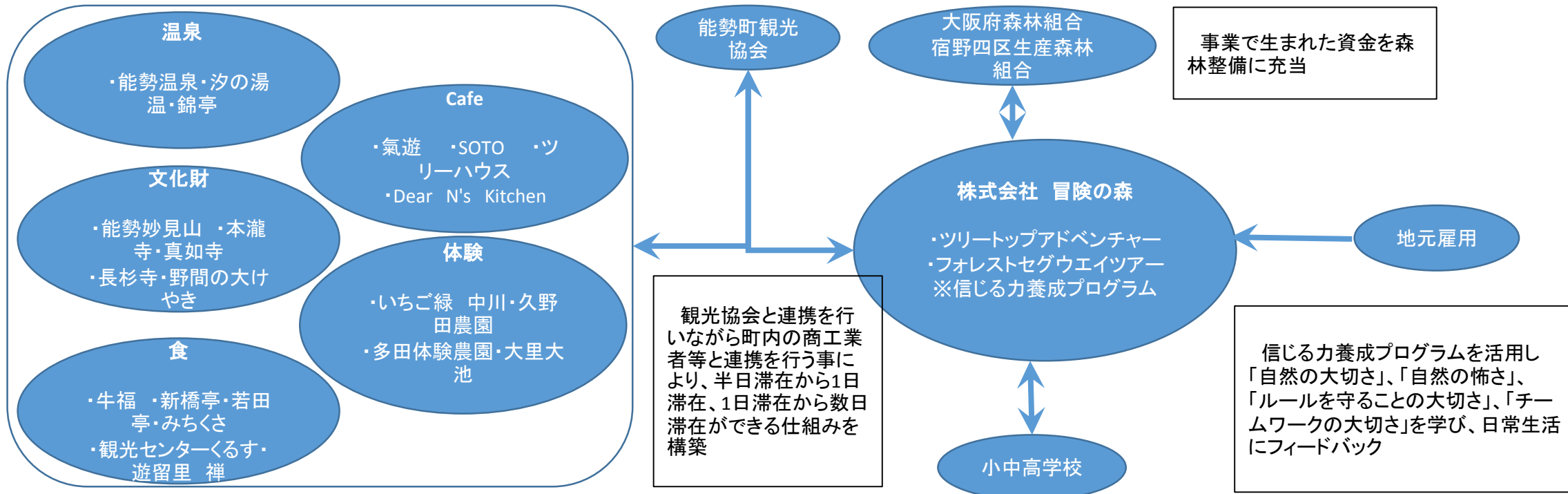
能勢町の観光の現状

観光資源が点在化していること、そして観光客に楽しんでもらえるプログラムが不足していたことから、集客が十分にできず、事業化が上手くいっていない。

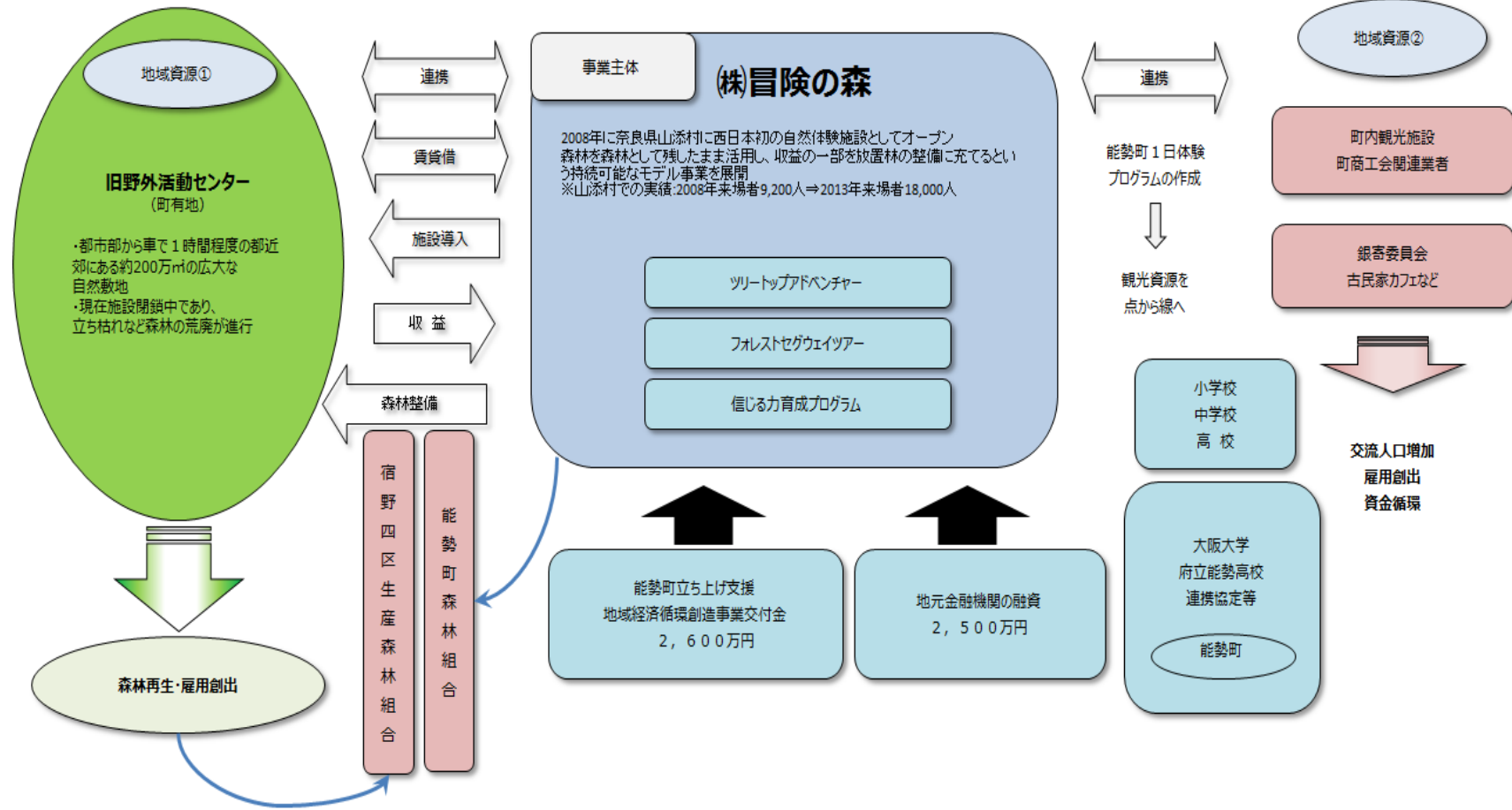


能勢町の観光の将来

使われていない野外活動センター跡地を株式会社冒険の森が事業を行う事により、能勢町に多くの人が訪れる機会ができ、これまで点在していた観光資源を株式会社冒険の森が行うプログラムを核として能勢町観光協会と連携し町内の商工業者等と連携を行う事により、半日滞在から1日滞在、1日滞在から数日滞在ができる仕組みを構築することにより、能勢町のファンができ、能勢町全体が元気な町、笑顔の町に変わります。



自然共生型アウトドアパークによる地域経済循環創造事業



地域の課題

- ・自然体験型施設（ツリートップアドベンチャー等）を野活センター跡地に導入
- ・上記施設を核とした町内観光資源をめぐるプログラム作成（観光資源のネットワーク化）

事業化

- ・自然体験施設の相次ぐ閉鎖（府民牧場、野外活動センターなど）
- ・観光資源の点在化（一日満喫できるプログラムがない）
- ・森林の荒廃（里山保全の必要性）

公益的効果

- ・交流人口の増加
- ・地域のヒト・モノ・カネの循環（雇用増等）
- ・山林の再生（里山の保全）
- ・自然体験による青少年の健全育成、やすらぎと癒しの空間の提供